

(1) 法人設立と農地集積・集約化 事例⑫ (大蔵村通り地区)

モデル地区

重点実施区域

事例のポイント

- 基盤整備事業完了した区域において、地区の高齢な農家と若手の担い手をマッチングした。
- 地区内の農家 18 軒のうち 17 軒の農地を担い手に集積・集約した。

地区概要・特徴

- 本地区は、大蔵村の北東部に位置し、一級河川最上川左岸に展開する水田地帯である。
- 基盤整備事業（H24～H31）を行っており、区画整理及び用排水路の整備を行っている。

取組み経過・支援等

- 基盤整備を契機に地元の農家 4 名を構成員として平成 26 年度に「農事組合法人このこのファーム」を設立した。
- 担い手が地元農家に熱心に説明して回り、地区内の農家が所有する 6 割以上の農地を集約した。
- 自家製有機肥料による米作りを行っている。
- 東北芸術工科大学の学生と米のブランディング事業で米のパッケージ等を作成し、独自色を出して消費者の関心を高めている。

成果

- 集落営農組織の法人化を行うことにより、経営基盤の拡大で 22.56ha の農地を機構から計画的に借り入れた。
- 地区内の 6 割以上を集積・集約化した。
- 地域集積協力金の活用
 - ・機械購入（トラクター）
 - ・協議会運営費

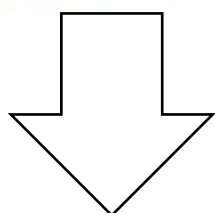
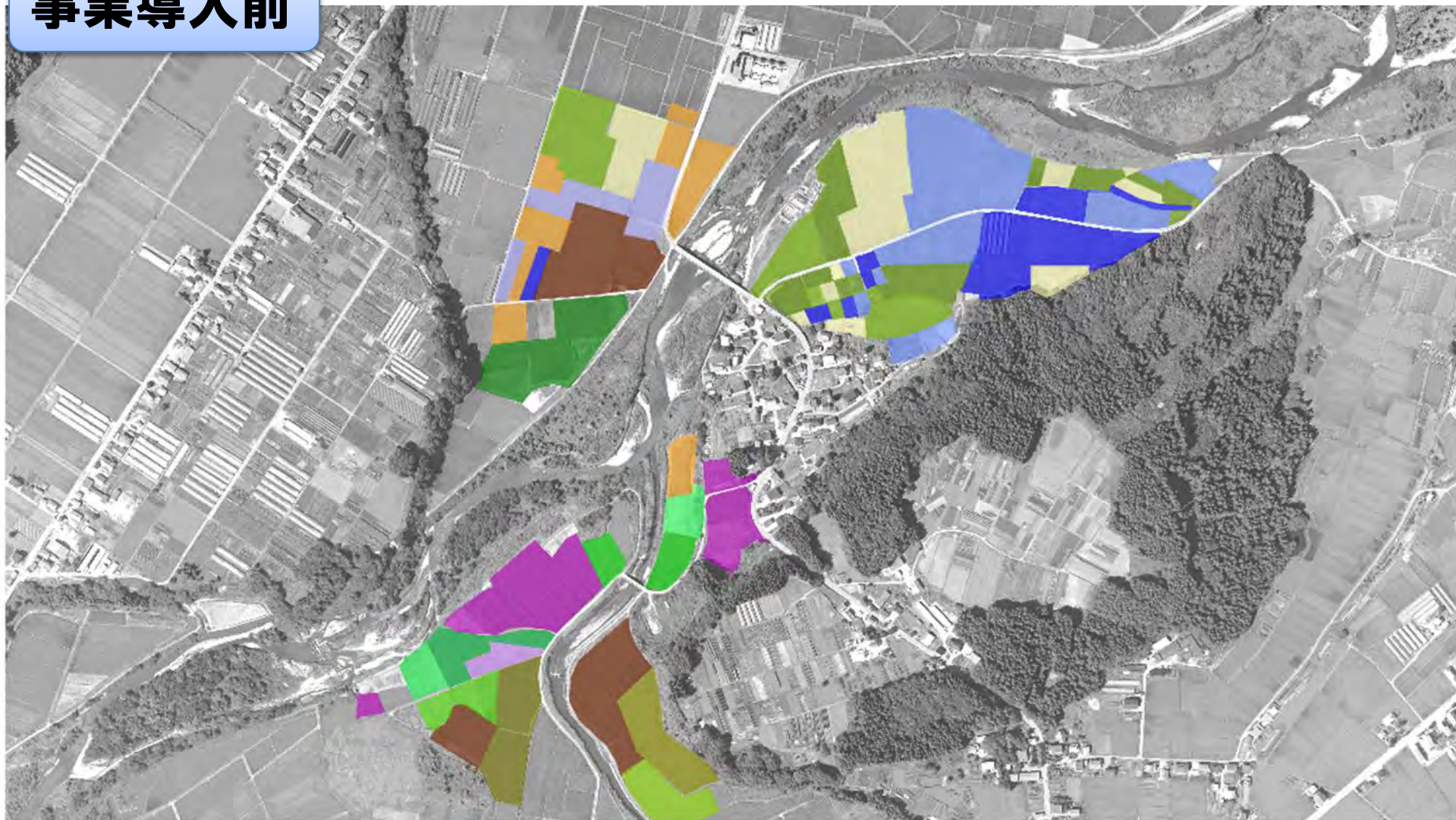


事業説明会の状況

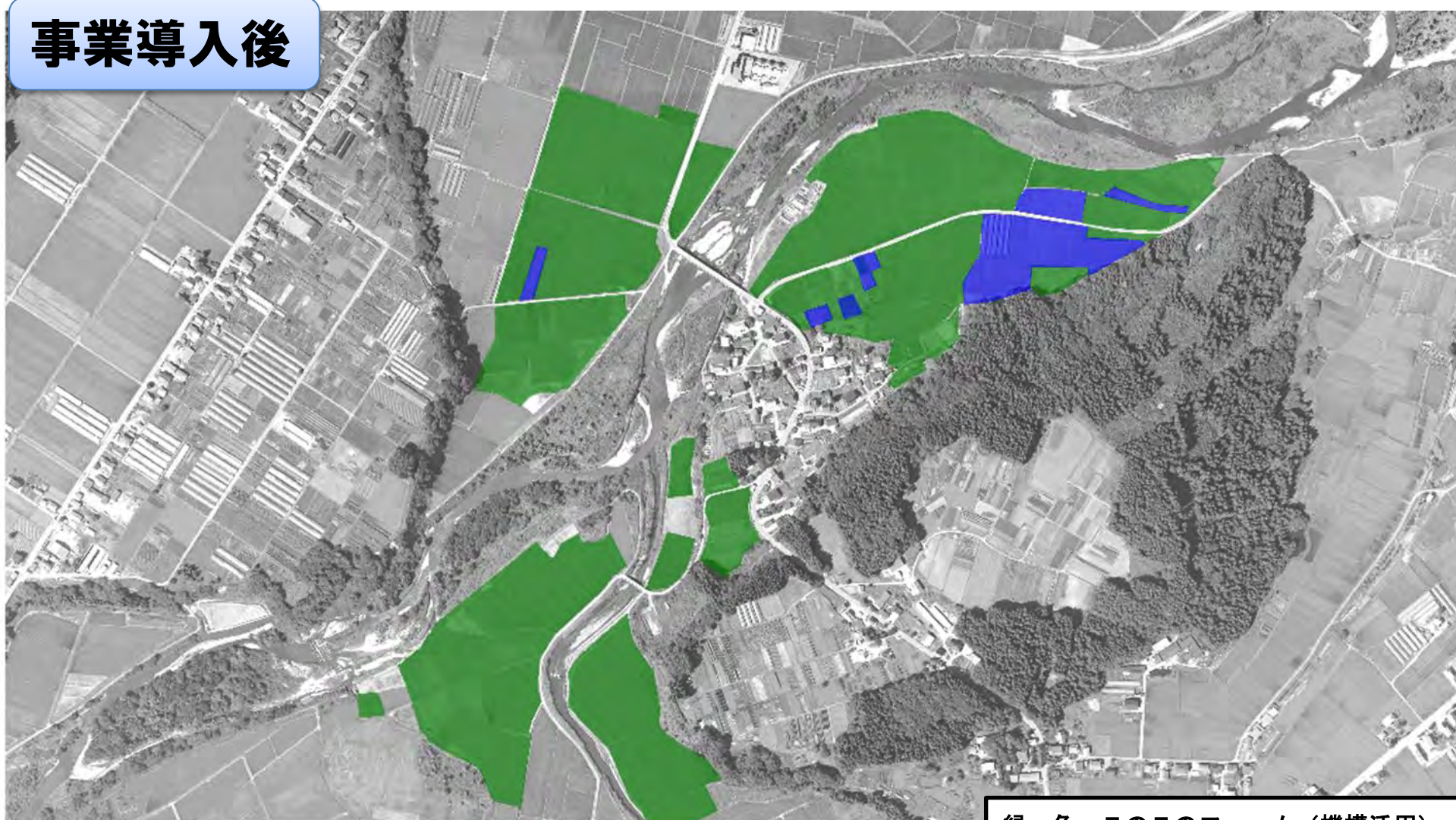


このこのファームメンバー

事業導入前



事業導入後



緑 色：このこのファーム（機構活用）
青 色：経営体B

項目	地域面積①	担い手面積②	うち機構借受面積	担い手数	集積率②/①	主な担い手
事業導入前	35.35ha	7.03ha		2 経営体	19.8%	農事組合法人 このこのファーム
事業導入後		26.02ha	22.56ha	2 経営体	73.6%	